

繪本寫寶袋

五

2158

五袋宝字本繪



繪本寫真卷五之卷目錄

金龍後武王圖

周公旦像

周公作柏車馬

羸伯子養馬圖

幽王放火鑿牆

甯戚叩牛角圖

晉重耳因遜作馬圖

卷中基之像

鄭文公繕丘山圖

伍子胥爭船獨圖

寫錦袋五

雲外小乘對弈圖
孔子嬰兒時嬉戲圖

繪本寫宝鏡之卷

金龍式と守護する事

殿の御主を遁々として臣民・若鹿と武主も雲々云々
皇城へ入らずして小付主から向くまうんとく
軍馬の軍勢を起す。赤郡(お)もや絃を八十万歩と
野に残す。殿の法ねを執りて追ひゆきて、代極て、也承認の
御相も又ね小方相として、もと餘り掛けて、代極て、也承認の
隊小遣へだよ寒たれ御く。あらすふ代極て、也承認の
乃坐陣して、入とせ候ひて、また利んごす。おの光輝
旗とて、八九の金龍出現して、またの車かと並行す。方相
もとめど代極て、也承認の二ねとて、ふん三、方相
あれと代極と三十金龍、通よ活捉とて、武主に則る武主方相
第もど情も、金と般うふを後方お高付主政小亡ひうの
面因わくて、命は保てんす。もとづく骨列て死を



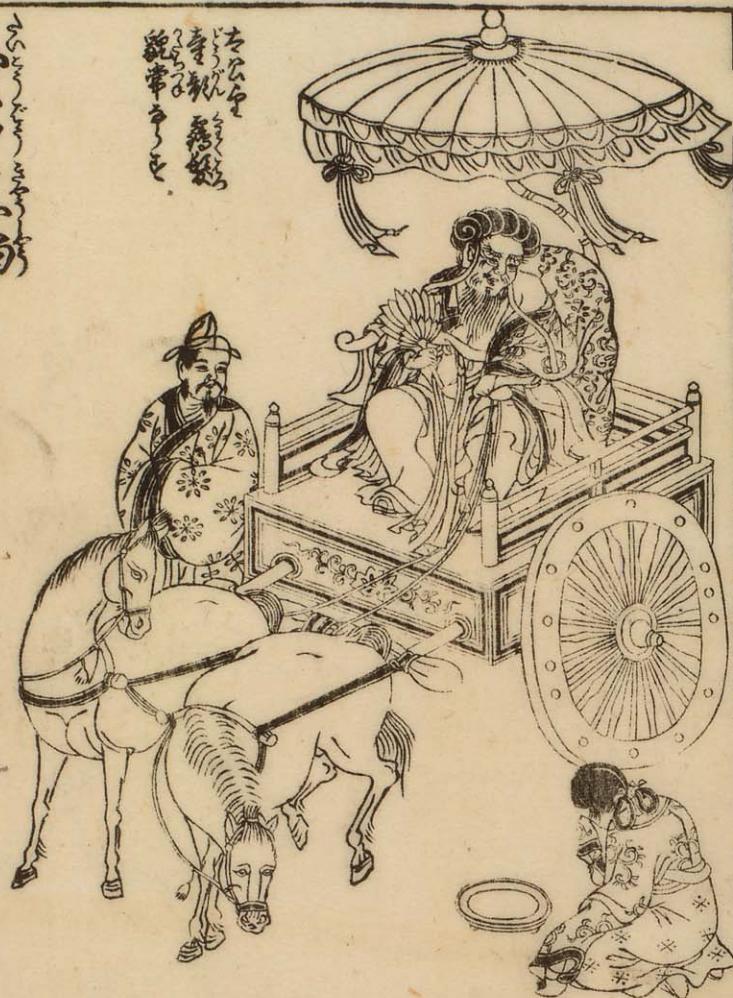
周武王

法公全
事記
總序

大公全義商

寫錦袋五

三



覆水車へ笠に收らば
大公全のあ心大軍師とありて、討王が私車節りん
武王帝佐よ即きをひきと承とりの大軍師とすま
もつて、大公も身ゆ移候はるゝに馬の車に参り候
千の御方々士車としに旌旗とぞれひのう十全敵
都督と拂て、矢矢に趣うけ不ふ詰難かるる事
乃る武夷うと車と路の側よ、迎ひ車の景は並り難
事と、事無事済りて、小難別成り、いま後悔どく
かのほれづくを我うえん船とゆく。舟びとやつて船め
かなくそりふちからまとみづらきに船入るを、らきと船ふ
覆して、まことに金よしにあすみづらきの云のあに
それと、唯船のと金よしり、大公全のいは、一見難別
じて、あづまの金をもと覆ぬかること、金よしりさ
ううか一と車と押せと歎えまの悔憂、うづく悔て死を

周公旦
えのとが武の才を大重へす。武王の成る年を
而後一の國公旦。而後は、事務の多忙なり。史記に記載
國の家事後もと七年の後、政を成王に譲り、而して國事の任より離脱
をもなすと、安泰をうけ、二年半八十二歳にて薨だ。

周公旦

贊曰

姓姬名旦。武王第貢朝攝政作樂制禮。二叔不咸居東有愍金緘辟患雷雨應敏袞衣言錦赤爲何病。展祀魯邦千載元聖



寫錦袋五

四

美約也。人臣之士。攝政としてすと。周公旦之相。而もその
後始て天下を治め。而も忠實に公天子をつかひ。政を攝し。すと。周公の例
ど則り。すと。あり。嘗く周公の子伯禽が。會ふ佛て曰く。我天子の天
王の才。厥也。厥父すり。然と。一の沐か三夜變と。指り。文叔
も。ちに。こ。び。嘯。と。呼。と。士。と。仰。ら。天。下。の。賢。先。と。也。と。也。
叔虞。桐。索。御。也。周成王。一日。手。叔虞。小。女。と。御。今。す。や。そ。の。と。す。叔虞の。日。く。櫟
う。成王。叔虞。小。女。と。御。今。す。や。そ。の。と。す。叔虞の。日。く。櫟
も。き。こ。櫟。り。叔虞の。日。朕。氏。相。繫。と。な。て。孫。孫。と。ん。汝。く。汝。
今。せ。は。伝。侯。と。し。叔虞。も。き。こ。相。繫。の。ゆ。と。じ。よ。成。王。も。の。の。
ナ。と。頤。の。往。き。り。但。汝。幼。如。して。伝。侯。の。經。と。往。ど。と。然。ひ。代。始。く
御。年。復。て。傳。侯。と。し。ナ。と。肉。史。侯。と。い。傳。侯。お。り。て。奏。と。向
陛下。お。ん。と。云。成。王。す。や。成。王。の。日。朕。國。う。く。の。ミ。史。侯。が。日。天。子。國
云。か。了。あ。を。か。と。之。に。使。官。史。冊。と。書。と。呈。し。く。ハ。私。王。叔

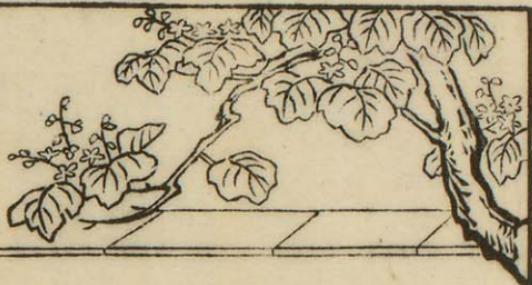
周成王



史佚

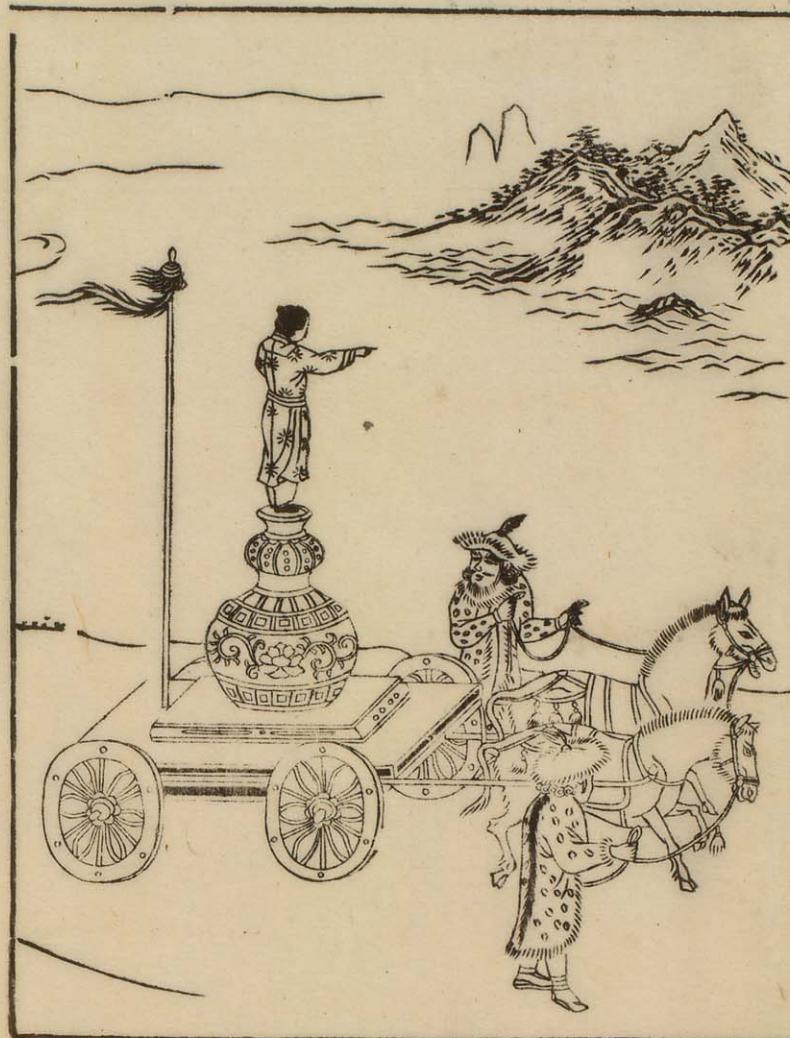


桐葉之詩
桐葉落庭除
吾王削作珪
如念連枝秀
春風共暢舒
叔虞



叔虞

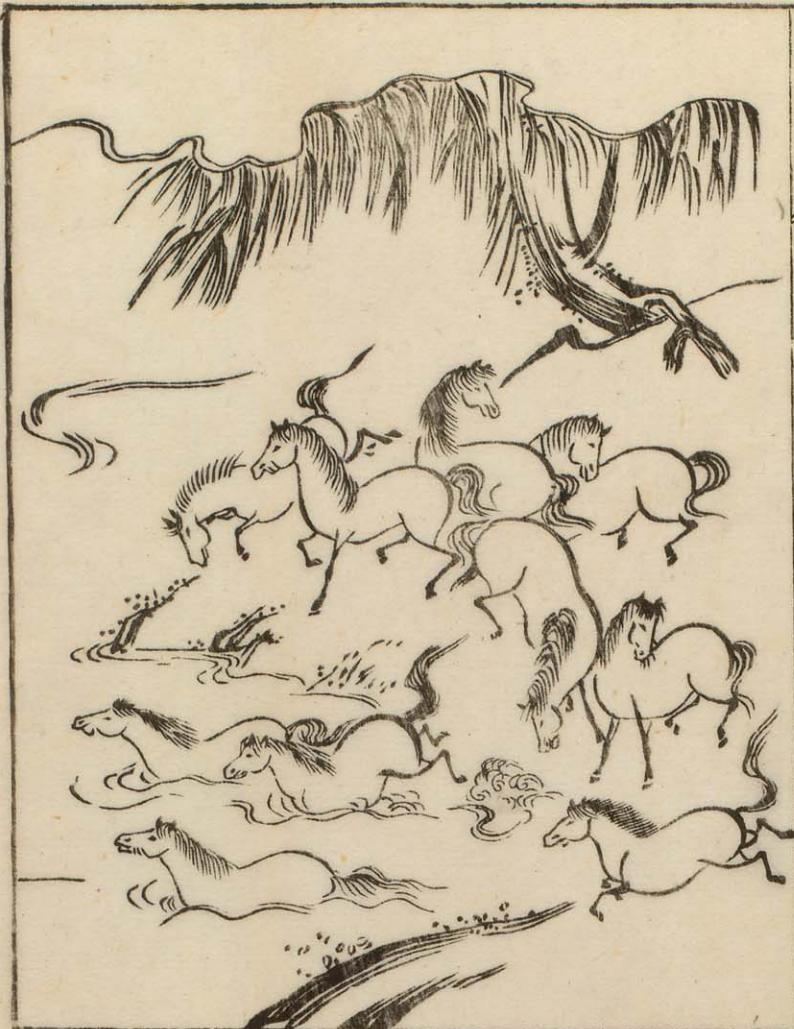
先君の玉乃元祖也
魏趙韓の三國也



駿河の御附葛夷の役未就いて貢と獻る日役石田より
 ドと皆と玉かどが小路の折中四十九里を走りて馬
 二千里走てまことに一本金と達て東洋より奉と成玉國
 か食して曰く莫段に國より多里の勞とどくのくわうと
 却くらんや國公すかづら莫段に都をとて國を揚め車成
 作て萬代よ錫小萬代は車と生れとそれとおもへばひが
 ふね本少て山少て之とくとくとくとくとくとくとく
 國公の時徐公達といふ夷系而はあらんといへ御主すかづら
 車かん花侯蘆原子久食して毛と依りし哈主八旗といふ名
 すく小奇士ふ日小千利と仰ぐ僕子徐公達といふ毛と橋主た
 敵を玉ひ名ふとめりひ善くアトと廻く山の他跡と宿めんと
 人といふ子よ爾翁と云セ假の破の太極といふ也嵩高の
 壇よかう瑞池に來りひ是か心もかく否の文獻ありて人
 リゲ門うり入て天子御車のうりと若主とあら白雲他輩
 ふあう松才徳妻と率ひ朝ひどして坐く稱主ひ思ひ

圖繪玉達西王母図

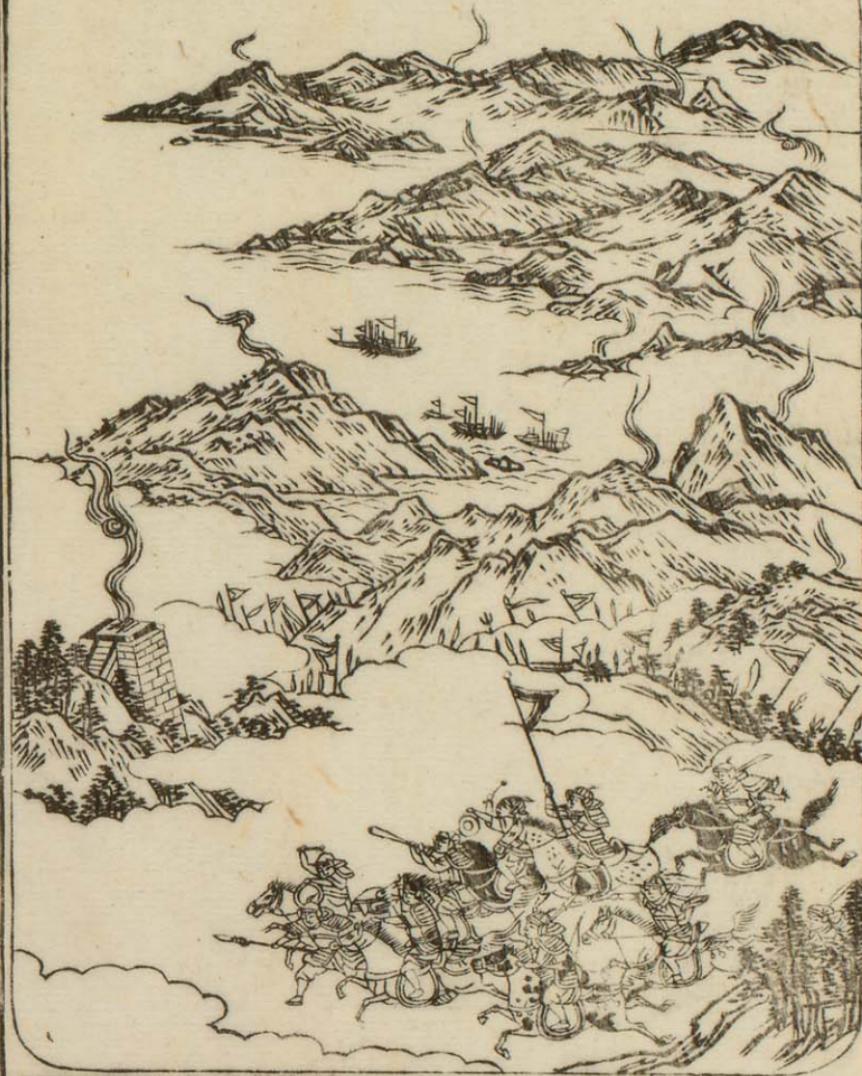




國者三千以羸弱子也越てひるくへ巻て物をとす
物をとす御手勅余はうけてもよし涙とくつ大河の急流を
此行の魚を成して毎日本アラモトと奉り御酒とてお喜び
子一川り計り生一粒とぞ安らとよきれど也あれから社とて済
入て御一みかづきに時岸のうるおるおとせと奉ひとさりふ
御心にれくらのうるおとせと奉るの歎く坐て松平正川
はがれ者にあらゆとくせられて一年かごくかかひては城の
孝王大いにせば也子に泰國・楊・毛泰始皇帝の私相手り
國宣王妻皇后・愛・至高尚宣して汝事にありなまひや后兩
毛と不嘆き体表とて毛と母とて毛と母とて毛と母とて毛
刻めつてと見りひそ毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と
貌と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と
毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と
毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と
毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と毛と



烽火臺之圖

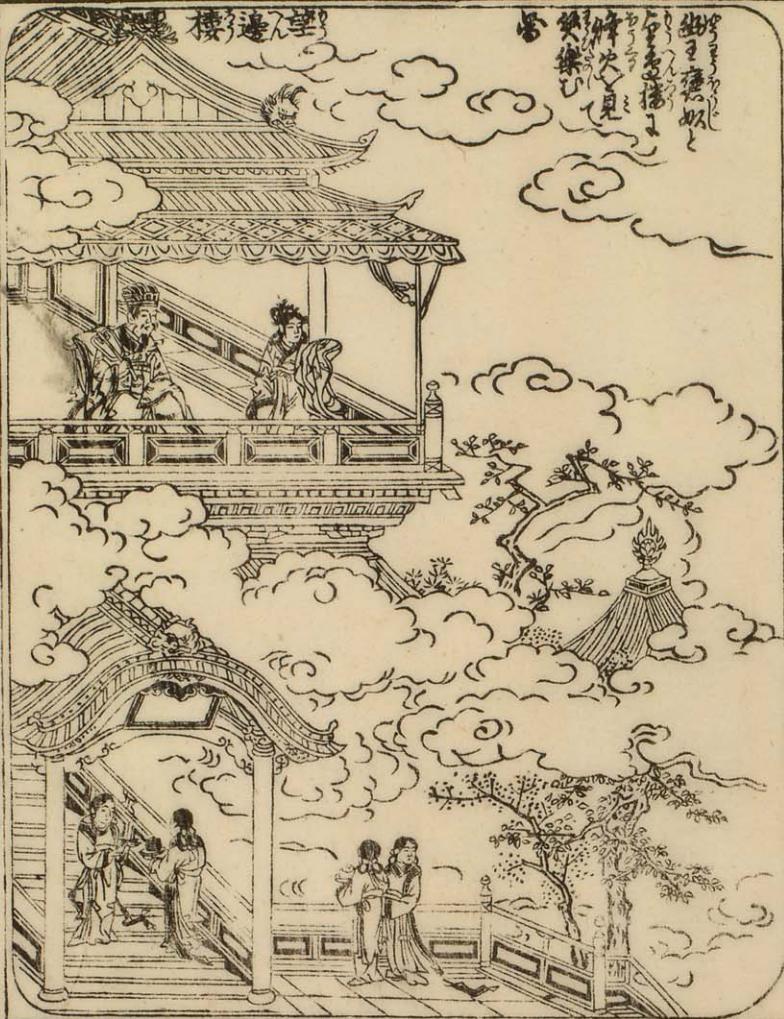


寫錦袋五

九

邊人望
峰次見
樂

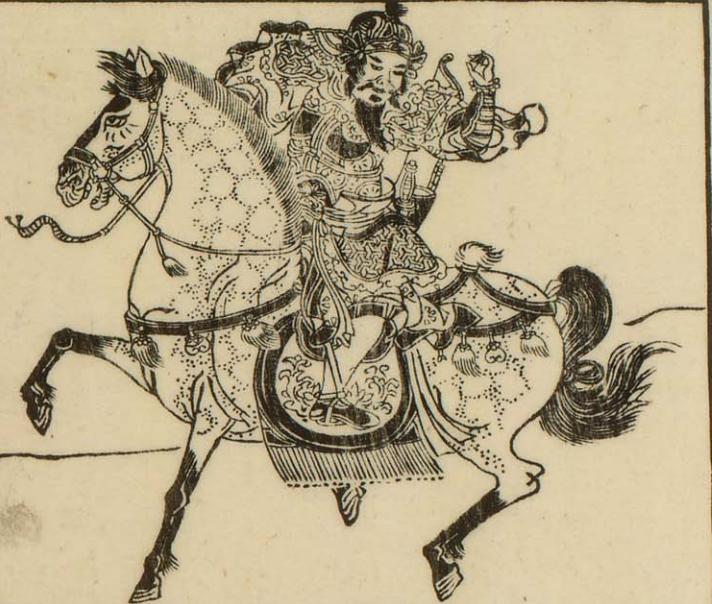
樂



寫錦袋五

十

御と対面とすを櫻と緋火と見て笑ひ事。
緋火春と云ひ金城か大手らしくいへ先の櫻とあげて都玉
あり小圓
樂かといふへ成樂をしてたまき小煙とあくら小煙の後
軍兵と卒て御ふ事の樂と小手も樂とあくられ
思ひ小湯ぐづき歎かくこのもの戲とあらうとせうじう
くにゆきゆきと草と樹て大よ笑樂じと後太武中
御とらへ金城代ちひうじうて緋火とあげて後後と
又主のかとくとぞとひて一人と来らず幽玉とよゑびと
ろへあふやうひりと付玉が犯始の刑と幽玉緋火臺の臺と
そと一枚の書とくに實よ大切のゆどくすと車にきても見
あやうう城の墨かくとづり小畫ヲなすれ
漢書にて塞王常に越と游んで小計擇と張り復秦と後とくと
毛と學と後秦の煙をく坐てのりて斜すと毛と復縫とくと



寫錦袋五

十一

おのの裏公も臣良を寵遇
おうじに財産公の才術を喜
まゆて魯公も御愛
キとてこそ傳愛仲
じて秋玉に仰せられ
も身小向ひを傳愛仲
あり小吉圓の勢を率て去
る海の愛仲毛頭鹿を守
て回すと主君を殺すが爲
か々小向ひを伝へ奪ひ去
る事なくしてかの勢
を失盡すに至らぬてか
よ中らに吉の兵愛仲が附
とかる愛仲が勢を失ひ

也。小向しゆく麻かみて佐は郎へ是を極公とすと後
歎歎牙う磨ひられて小向愛仲が矢を射る仇と教へその緊
迫ゆきをもて相あふ。愛仲う孫と角ひて大を霸と奉
小振ふ。子愛仲と名入宣してこの謀の謀とぞゆふ
秋の極公管仲う孫と角ひて子深奏して彼侯と小唐と
のふおれを盟と宋公豊に齋くみづて極公もれと争り。
大軍と率ひて東の國城をもて進發もれ示し衛士の農
是富庶との志をもてて平ノ牧く極公のふお小近づんと
是をもがり刀を牛糞角とすて時政強制て被。極公無く
先と折れた後仲高ひ牧を抜き小凡人すすす。因て之
を走とて威を以て從へて保諭へとされ。宋乙の十三の建
及ばずして京畿を平治へとつて富庶と嘗じて
中軍統係

南山燃白石爛中有鯉長人半
生不逢堯與舜禪短褐單
夜半長夜漫々何時且





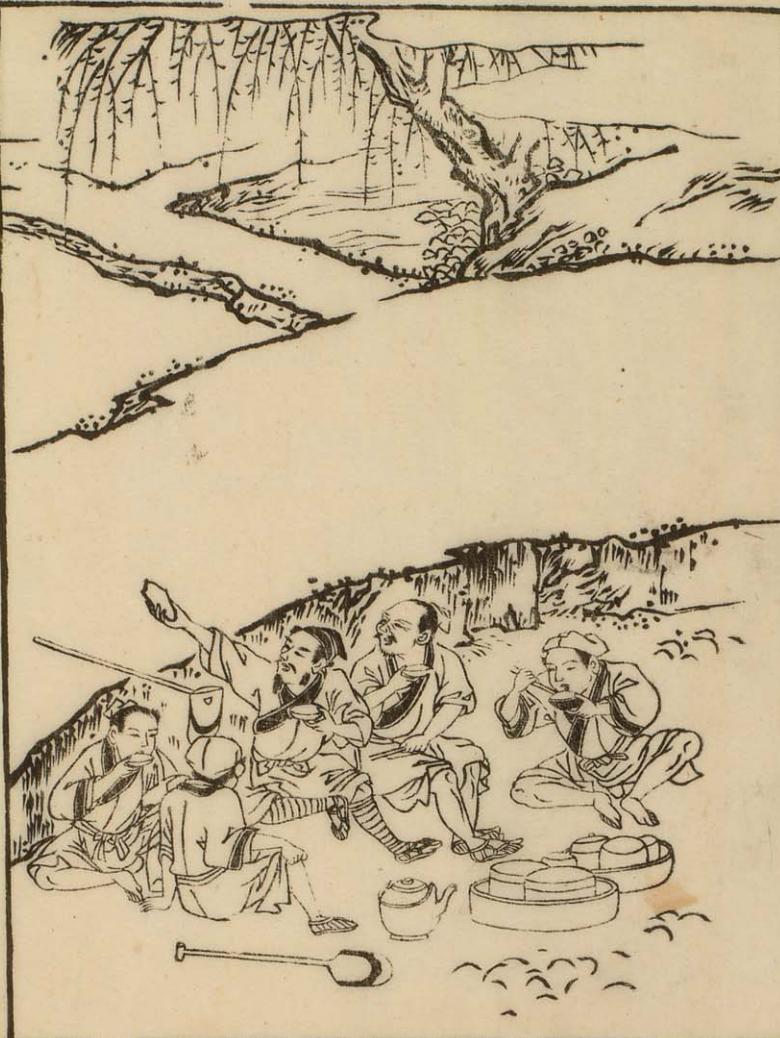
櫻花紅時李花白
桃紅李白呈春色
惟有寒梅不鬪芳
藐視年光為過客

さくらの紅とき りんごの白
ももとしろのうめの 春のいろ
みずからうめの 香りをうつさず
年光を藐して うきうきと見ゆ

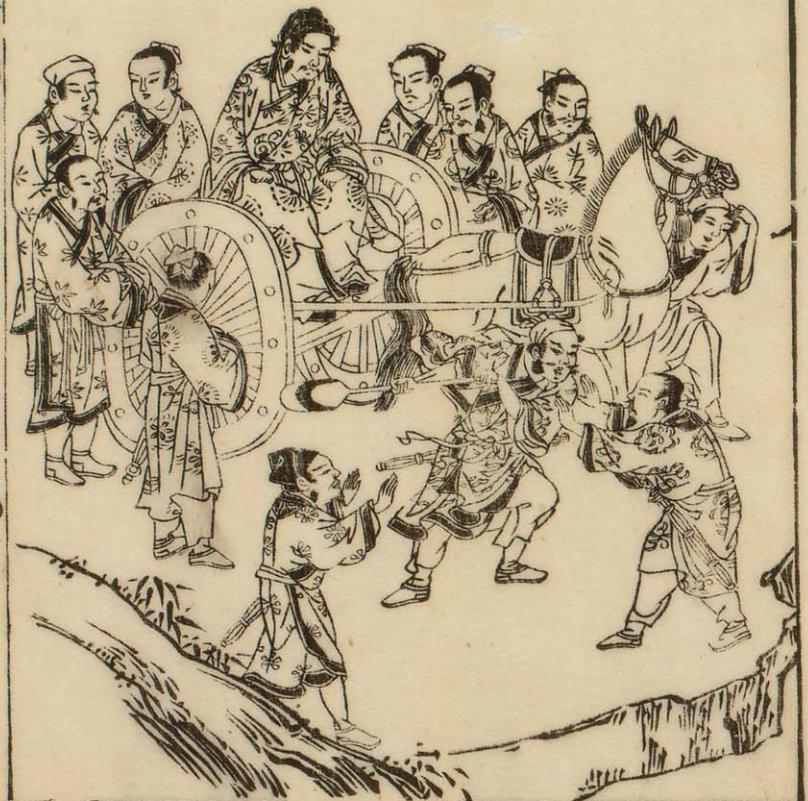


紙の匂と云ふに姓へ塞名は叔字伯潤と云へゆ。博古今小通して此事小曉事をとひて、とて宋語へて書ふも、秦公が
蜀王室の事より、而て公子襲と稱ふまゝて賜し、襲紳ら
を承認する事にて、乃ち小竹林の中に御殿と有す。白人城あふ
也て茅庵あり、繋るより下り案の龜とやく、内より事す
雖も主君へと御より祀見よがす。以て、うるる、といふ
も、くみそ、一人の耳毛が、からだ裏、布の地裏
一箇子の、金の小柄花一枚、とし家は、極乃待吟
連く茶庵より入る。樂奉公の命は、若く、塞外が、
樂う。且つ、百里奚の考じると、もう、からだを、もと、おる
ト、僕小提手として、ゆる。樂出りし、塞外、故り、あり
連く茶庵より入る。樂奉公の命は、若く、塞外が、
樂う。且つ、百里奚の考じると、もう、からだを、もと、おる
くは、と、ほり、茶庵と、長く、廟へる。んや、と、塞外と、伴ひ
奉へゆる。奉公陪、傍り、まづ、途へと、と、走小舟、白里奚
よ、い、まく、奉の國へ、より、難業へ、渡山印、其名也て
詔。一舟の跡材、なり。半余と、死と。

晋の獻公驩戎伐虢て驩服とひて、史人曰、晏所生藤
娘の色う子と、きく性と嗣がゆれり。いたず申生、後
殺と申生の弟宣耳驩と云國は逃り、宣耳の弟夷宮
樂の由に走る。至後里克と云臣矣和と殺。一驩服が逆滅
やう行。夷吾と遠く、佐か節先と惠公との宣耳、皆少の女
と嫁て、十余年と経て、このが、生毛后趙襄疵毛等と儀して
奉楚よ過さる。毛と浩、過く者、の國よか。ア入らんと、毛の御
毛に、御、清公、ア字で、御、毛とも、重耳、坐て、毛と、大に、曹
國よい。て、根木、盈くね士、疲う。し、歎、と、ね人の農、牛
飯と食す。重耳、孤腹とて、毛食と來し。農、又、曰我あれ、毛、
乃が、丈、仰て、仰り、毛、んと、國よ、云魏，卑、大、よ、安て、毛、
年、か、う、大、毛、んと、云魏，卑、大、よ、安て、毛、
毛と、流、偃、と、向、去、ハ、國の基、か、う、毛、と、ね、年、と、云、毛、
年、と、車、下て、毛、更と、以、内、介、毛、孤、腹、の、因、と、毛、
毛と、秋、小、學、毛、家、毛、と、ま、耳、次、妻、セ、毛、く、毛、と、傳、と



十英傑
輔佐
重耳
從之
趙襄子
子餘
白季
字晉臣
公孫賈陀
魏犨
字公詒
介子
推
字公叔
顛頽
字高舉
先
畢
萬
字極
之
狐偃
字子犯
毛
畢
子
時
春



卷由基
桂の子一而一之を先陣の軍ひあり時而安遠く柳
乃縛り御者を生津の敵を捕と長との討由基
敵を大に軍兵



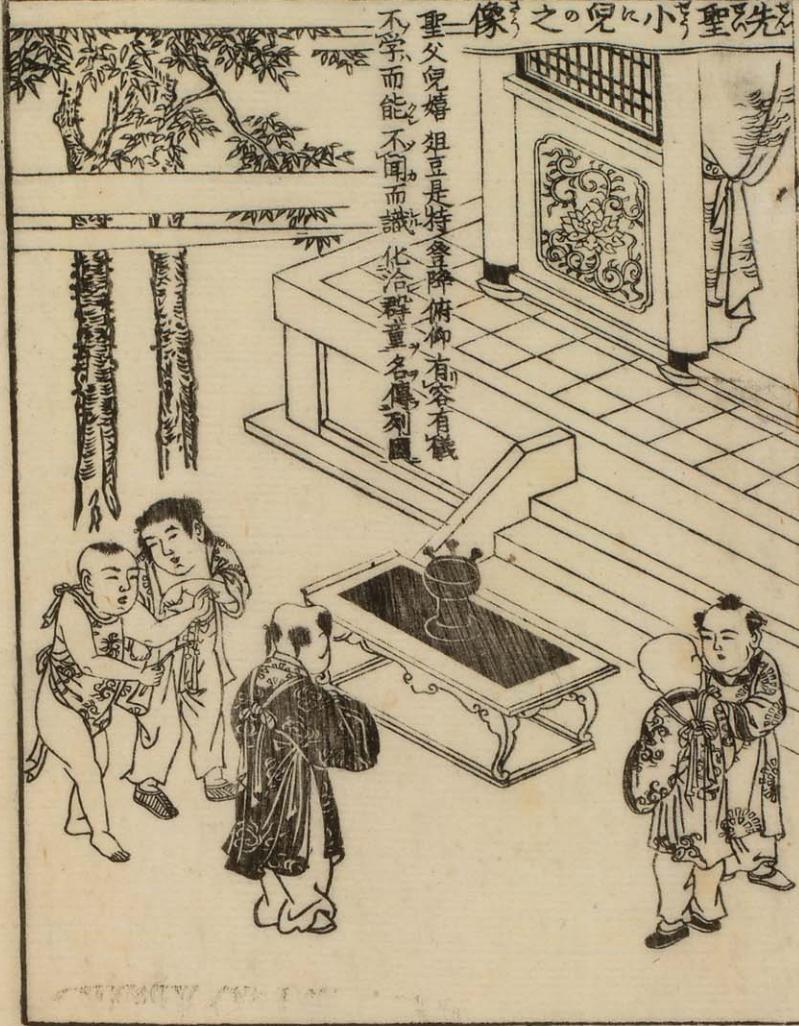
とれへうれふ身
あらきよなづるを
まくはせふかそれ
敵て近づくを
引て御前お軍
こゝ晋侯すらく
忠臣よわらう後
徳ひどそ勝利
万伏母を殺して
由基と村越すひ

要外聞鴻夜射聲撃の奏由基との居と跡とと依よもてば
萬と盡く一矢の因の候とには又處とをも虚を次をもて急
とひきり都をもひて居の事より西からむむむむむむ
堂と成村神と一矢の因の候とには又處とをも虚を次をもて急
御被と急冠とぞ矢を射て御者を平に當古より君主と公卿とを優人盡きり

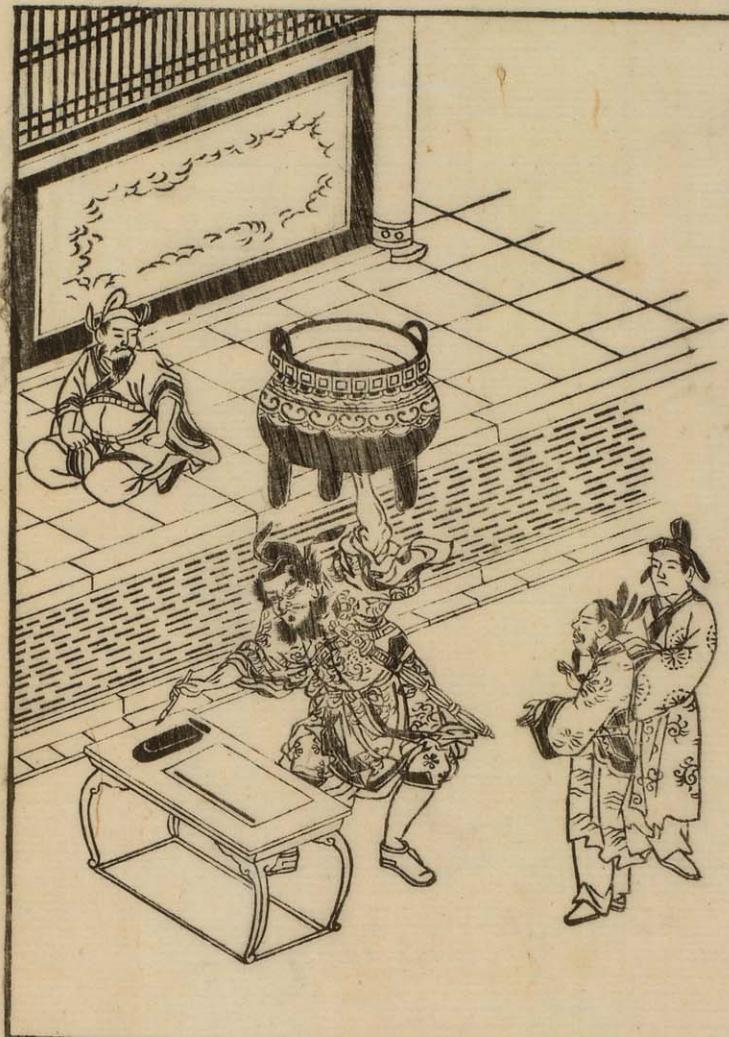
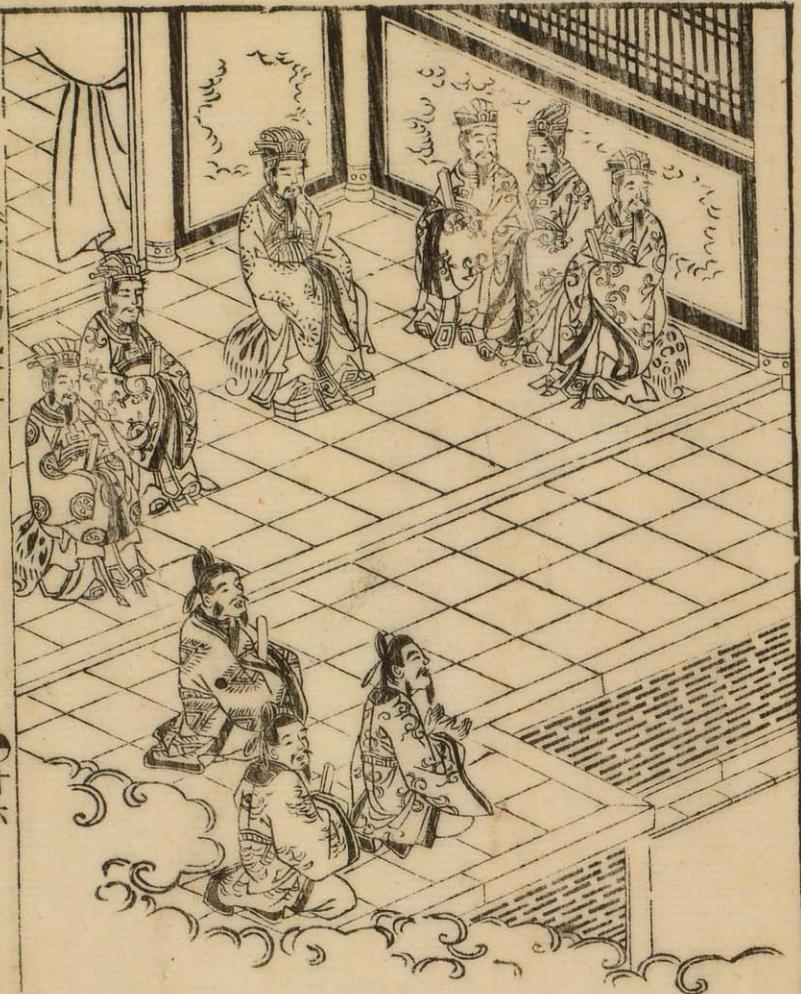


聖先聖先小兒之像

聖父兒婚姐豆是特尊降俯仰有容有儀
不學而能不聞而識化洽群童名傳列國



秦の良び難業と天下に振づんと號一圓乃天子次奏して奈
徳侯と後達よ云と又傍か共とて方にて休く近へるも六槍
みせんと織り下りて小劍の徳侯名宝物と持て僅案
めり御の本支晏平仲向くしゆへ徳侯乞すり以てと
公の臣事一對て文武無能の士成れて利小方是也と織
道下、とくに文字行義と善へ即一又至る年行の興と
奉らむとて心地とす下そハ白の是日次第著下れ
天行所附地仰依
にあ源泥行處出
み行迷道雅名宣
体奉六題莫要問
有能明じは是男兒
も財秦國の軍公孫后輩てて盛りすりあひ巡る
の題量て経歴の多くて興へ奉地城をあすうた二丈西
郭くして下に金法人おれと威ドすでおぬ物ノリんとすふに



楚の軍を子音向進ぐ曰公孫后文添傷じて題破れ
興と表て也と争ひて徳モハ御子也んと争ひて國
天元徳比之流也
はみ自從て之に附
去坤る寄ふ此徳
奉山己教究審應
人ら黄高万物全
篇此徳明云宮
器風而れて興徳奉徳候の事と重り又元の不仕合
子音画よの徳よつてあ階のこれにて始む言ひ始
徳象よし一往すと家財と只壁少へ重と徳あらず衰公の曰
差へ不思考小徳として勤めとや子音う曰我其家とすは惟若
能て家と不思考とすは曰民善樂ひ徳よ法國の大珍案
方すの殊よせんや衰云理子振とおもと能ひば子音又衰か
曰唐溪の一端と云れ法性拂西川を渡送一め終之曰公孫后拂
渡く宣あらじて佐共拂て犯ヲ能つて侮ふ子音うかう
うして徳候と傳ひどらのく辨御して至る
ふ參照